



短期集中予防サービスC 事業所説明会 平成29年度 実績、経過報告 実施事例紹介

平成30年3月2日

宮古島市役所高齢者支援課
介護予防係

宮古島市



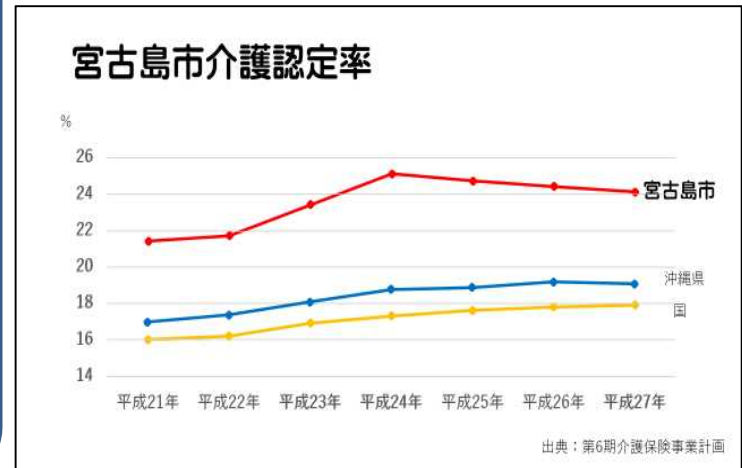
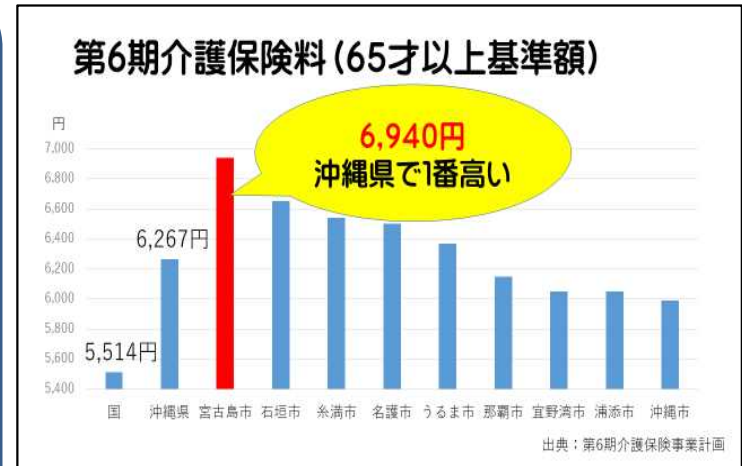
宮古島市人口

約5万5千人
 高齢者人口
 約1万4千人
 高齢化率
 24.8%
 要介護認定率
 21%

(平成29年10月1日現在)

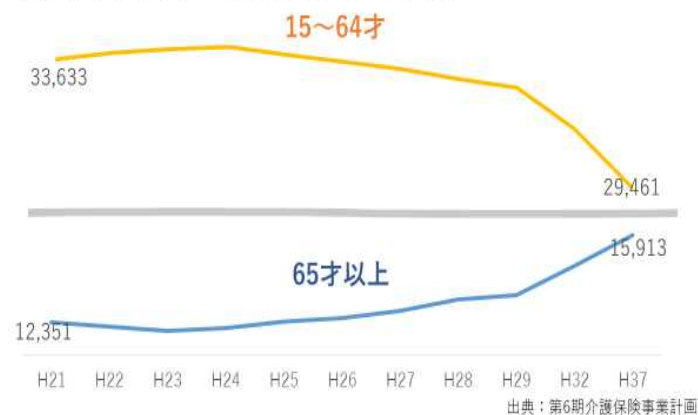
第6期
 介護保険料基準額
 6,940円

第7期 ↓
 介護保険料基準額
 7,150円



働き手は減少し高齢者は増加

高齢者と若い世代の人口推計 (H25年推計)



宮古島市

20歳前後の若者は島外へ出ている者も多い
進学や就職で若者は島外へ

後期高齢者の増加

65歳以上の独居、夫婦世帯のみが多い

※要支援者の6割は元気になる可能性あり

※サービスの「流れ」をつくる

※地域づくりによる介護予防推進

※サービスを提供の機能分化

介護度別新規認定者数

(H28年度)





介護予防・生活支援サービス事業
短期集中予防サービスC

- ・保健・医療の専門職が実施
- ・短期集中予防サービス
- ・対象者自身が自覚を持ち、意欲的に
取り組めるよう支援
- ・具体的目標を明確化
- ・集団、個別を組み合わせて実施(通所型)
- ・サービス終了後の社会参加を視野に
入れて実施されること



平成29年度

利用者数：通所C 28名 訪問C 3名

委託事業所名	通所C 実施者数	訪問C 実施者数
うむやすみやあす・ん 診療所	14	3
下地診療所 アルケーるクラセーる	8	
宮古島リハビリ温泉病院	4	
宮古島徳洲会病院 通所リハビリテーション	2	-



H29年度通所型サービスC 利用者

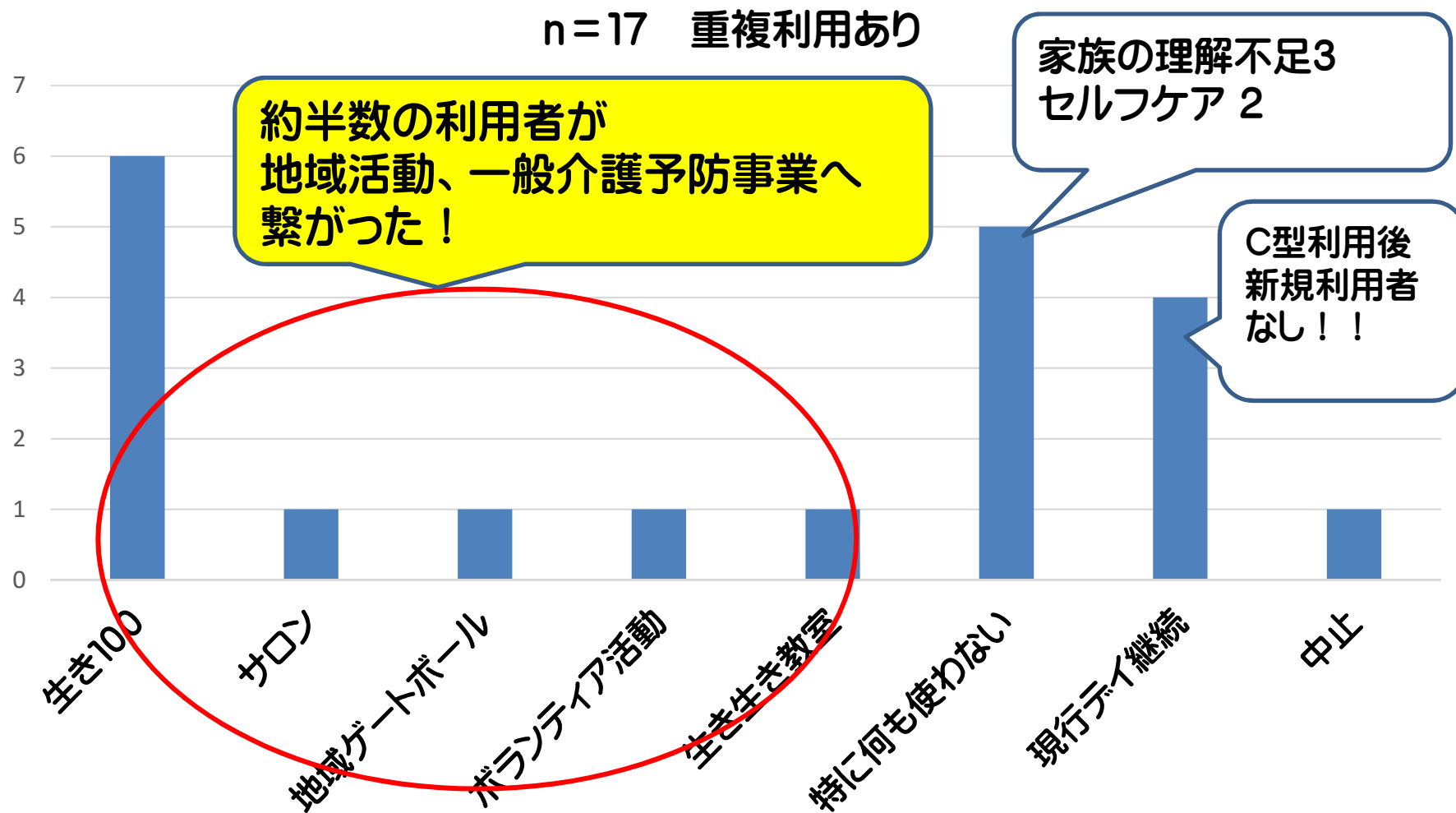
認定状況	事業対象者	12名
	要支援1	10名
	要支援2	6名
継続状況	中止	3名/28名
身体機能	ほぼ全ての利用者が改善	



平成29年度通所型サービスC 利用後社会参加状況

平成30年2月7日現在

n=17 重複利用あり





短期集中予防サービスC 流れ

事業所

- ☆事前調整会議
- ☆初回(事前)訪問
- ☆短期集中予防サービスC実施
- ☆終了後の報告会

事前調整会議

短期集中予防サービスC利用希望者について

基本情報

介護予防アセスメント1・2

生活機能評価表

興味・関心チェックシート

個別支援計画書

主治医意見書

会議の主な内容

※見込み(予後予測)

※達成可能な目標設定

※終了後の社会参加



初回(事前)訪問

委託事業所スタッフ、プランナー、市担当

屋内、屋外での動き

ADL、IADLの確認

おおまかな身体機能の評価

※生活課題を明確化

※出来そうなことを一緒にみつける

共通理解 合意形成



報告会

終了後2週間程度で実施

- ・目標達成の状況
- ・実施した検査データの变化
- ・日常生活での变化
- ・ご本人の変化
- ・今後の課題 等



通所型サービスC実施例

通所型サービスC提供の様子

(協力:うむやすみやあす・ん診療所)



意識付け

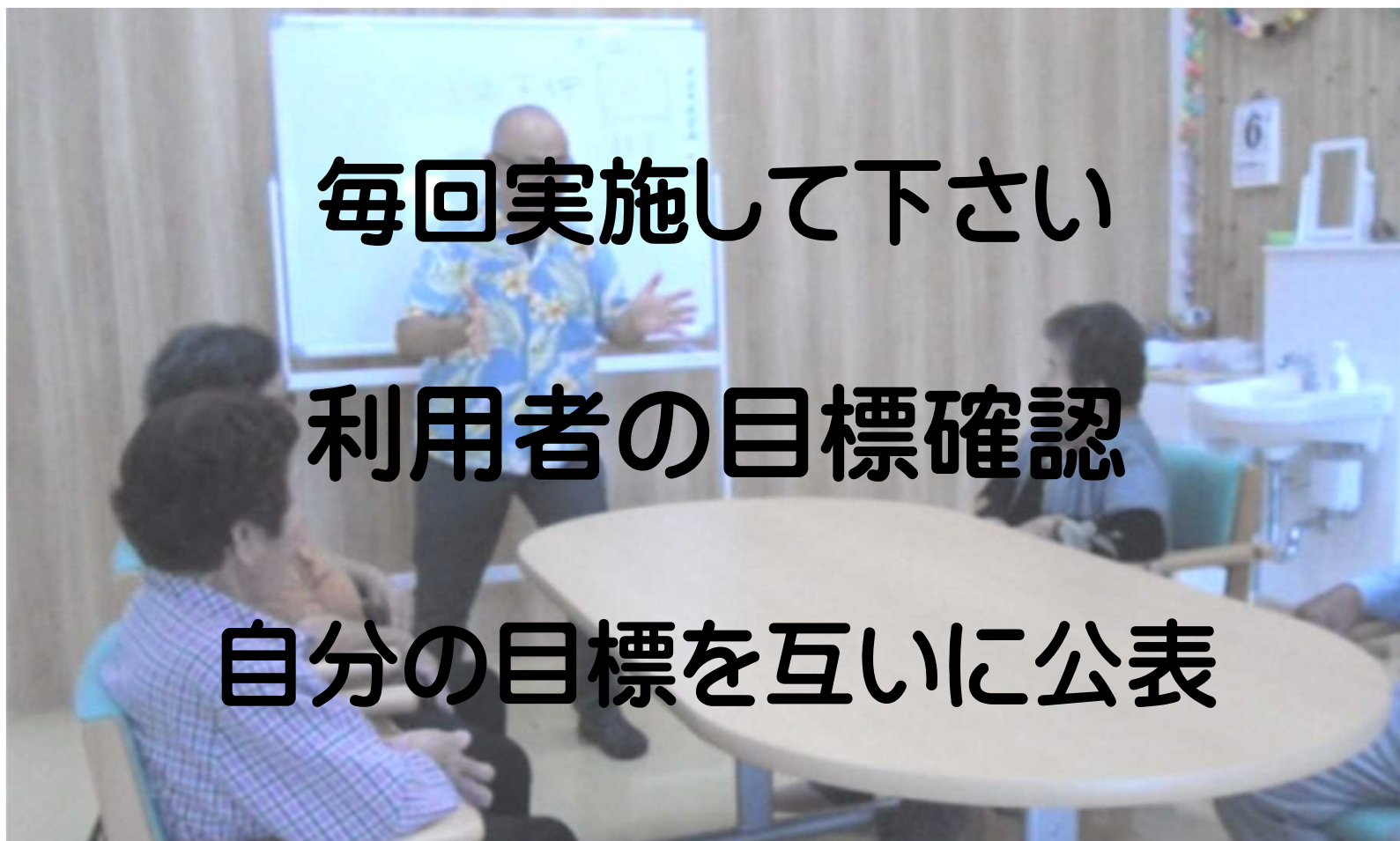
毎回実施して下さい

通所Cでめざすもの(目的)

卒業にむけて実施されるもの
元気になって何がしたいか



具体的目標





集団 準備運動





個別指導

利用者の課題にあわせて実施

※処方箋がない状況での専門職の活動
となりますので、物療（ホットパック等）
や、直接利用者の体に触れる治療
（ROM等）は実施不可



訪問型サービスC 実施例

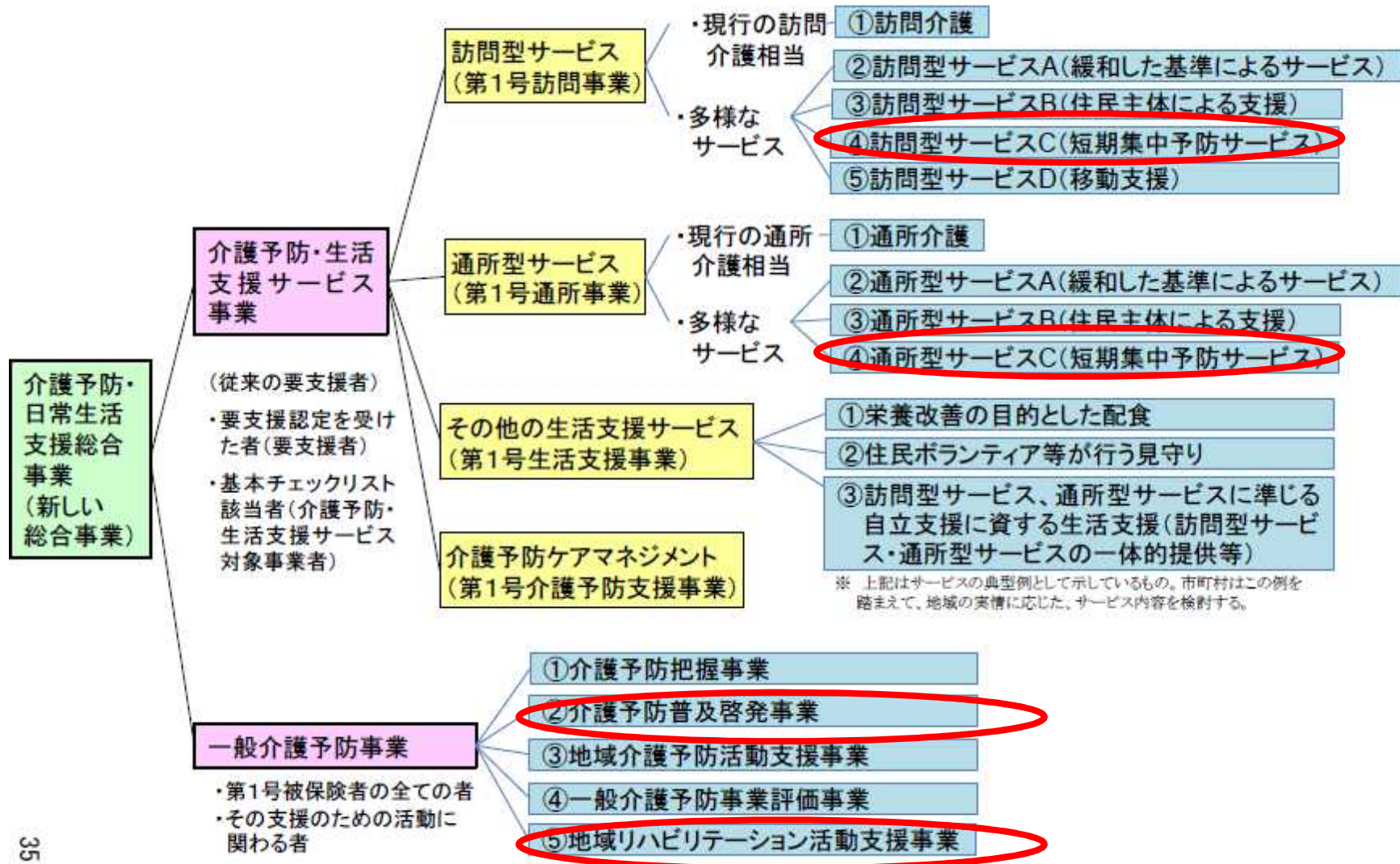
より明確で具体的な生活課題の抽出と目標設定

事例 84歳男性 要支援2 脊柱管狭窄症



一般介護予防事業

【参考】介護予防・日常生活支援総合事業(新しい総合事業)の構成



一般介護予防事業 リハビリ専門職の関わり

介護予防普及啓発事業

生き生き100歳体操(県モデル事業で実施。専門職派遣リ専協より)

地域リハビリテーション活動支事業

個人宅への訪問	介護予防パネル展	研修 14回(島内講師)														
<table border="1"><tr><td>理学療法士</td><td>27</td></tr><tr><td>作業療法士</td><td>15</td></tr><tr><td>言語聴覚士</td><td>10</td></tr><tr><td>歯科衛生士</td><td>36</td></tr><tr><td>管理栄養士</td><td>51</td></tr><tr><td>保健師</td><td>32</td></tr><tr><td>総件数</td><td>171</td></tr></table>	理学療法士	27	作業療法士	15	言語聴覚士	10	歯科衛生士	36	管理栄養士	51	保健師	32	総件数	171	 <p>相談コーナー 相談件数138件</p>	サービスC 担当者会議 意見交換会 など
理学療法士	27															
作業療法士	15															
言語聴覚士	10															
歯科衛生士	36															
管理栄養士	51															
保健師	32															
総件数	171															

事例紹介

平成29年度

通所型サービスC利用事例紹介



事例

目標が曖昧になってしまった事例

77歳女性 要支援1 右膝人工関節置換術

通所C目標:調理の実施

身体機能は向上し、4点杖返却、両手に物を持って移動出来るようになった

→家族の不安が払拭できず、目標が拡散

→運動機能が向上しても生活機能の向上、社会参加に繋げることが難しかったケース



事例

具体的目標共有→結果に繋がった事例

81歳女性 事業対象者 腰椎圧迫骨折
通所C目標:生き生き100歳体操に通う

通所C開始前:専門職指導

通所C初回訪問時:目標共有

会場までの道程確認、課題共有

→通所型サービスCの目的を理解
した上での利用と達成可能な目標
設定





事例 

通所C終了後自らボランティア活動実施

73歳女性 事業対象者 糖尿病、高血圧

通所C目標 グランドゴルフに行きたい

旅行に行きたい





事例 入院中からの関与で通所C利用へ

87歳女性 事業対象者
変形性膝関節症 (左Opeで入院中、右Ope済)

- 医療と介護の連携
- 入院時からの包括支援センターとの関わり
- 地域ケア会議
- 丁寧な情報共有
- 本人を含めた
意思確認、目標共有
- 地域課題の抽出



退院前会議



事例 入院中からの関与で通所C利用へ

87歳女性 事業対象者
変形性膝関節症 (左Opeで入院中、右Ope済)





事例

地域課題解決の原動力

下地与那覇地区 通所C利用者

76歳女性 事業対象者

78歳女性 要支援1

80歳女性 事業対象者

89歳女性 要支援1

ここ(サービスC)が終わったら、与那覇では集まる場所はないよ。若い人もいないよ。デイサービスに行こうかな。

- 通所C終了後 生き生き100歳体操の説明
- 通所C利用者から防災センター活用の案
- 市担当職員が市防災危機管理班と調整会議
- 施設見学を経て住民説明会に至る



事例 地域課題解決の原動力





事例 新しい風を！

サービスC実施事業所意見交換会より

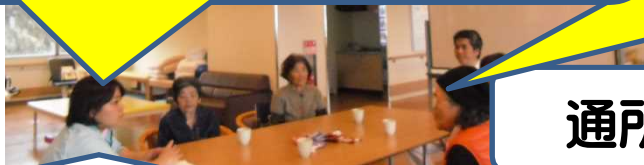
利用者の声『自分がやってもいいから集まって何かしたい』

利用者の声に耳を傾ける

→地域課題解決の風穴を開けることが出来るかも！

住民の皆さんが主体になって行うことが大事。
きっかけづくりをします。

以前(10数年前)のようにまた皆で集まって何かしたいの。
でも一人では無理。



通所C利用者

第1層生活支援コーディネーター



短期集中予防サービスCの魅力

専門職の介入により

利用者本人の具体的な課題が明らかになる

利用者にあった身体機能の向上が図れる

- ・多くの関係者を巻き込むことで、地域包括ケアシステム構築への力(地域力)が強まる
- ・住民の意識改革、介護予防の推進を図る事が出来る
- ・地域課題の解決の一助となる



ご協力よろしくお願ひいたします。